NPO 法人わくわくかん 編集 〒115-0044 東京都北区赤羽南 2-6-6 TEL: 03-3598-3337





http://www.wakuwakukan.net/

2018年1月号 No.202

<u>??なぜリボン??</u>

生まれ変わった 再生したという意味の (Reborn)。 新しく生まれ変わる 「便り」にしたくて、名付けました。



新年おめでとうございます

2018 年を新中長期計画作成の年に



皆様 新年をどのようにお迎え でしょうか。年末は、一段と寒さも 厳しくなり、今冬は雪が多く降るか もしれません。健康には一段と気を つけてください。

昨年は、わたし達を取り巻く福祉事業の環境がいろいろ厳しくなる中、働く皆さんの奮闘によって、少しずつわくわくかんの事業も安定度を増しつつあります。しかし、しっかりとした体制をつくるには、まだまだ気を引き締めて取り組んでいかなければなりません。

でいかなければなりません。「みせる事業」展開が必要さて、昨年12月には

2018 年障害者福祉サービスの報酬改定の改定率が発表されました。今年は、6年に一度の医療、介護、福祉の3つの報酬改定が重なる時であり、大なたが振るわれるのではないかと一部に心配されていました。しかしながら、0.47%の報酬アップであり、3年前の±0%という状態から考えると一安心というところです。とはいうものの個々の事業の報酬算定の考え方を見れば心配な点も多いのです。基本報酬自体がこれまでのように同一ではなく、事業実績に応じて事業所毎に異なってくる点です。就労移行であれば6か月定着の就職数、A型は平均労働時間、B型は平均工賃額によ



理事長 齋藤 縣三

省の誤った基準改定、更には労働時間による基本報酬算定のもたらす悪影響は甚大であります。これでは、短時間しか働けない人の参加を否定するようなやり方となります。どちらの施策に対してもしっかりと誤りを正して、どうすべきかを提示しながら、わくわくかんの行く道をしっかりつくっていかねばなりません。

2018 年は、その意味で「わくわくかん」の新しい中長期計画を練り上げていく年にしなければなりません。就労支援事

業については、昨年来北区単費の補助金が増額されたというものの、就労移行の競争は激化するばかりであり、事業の質的強化が欠かせません。自立訓練一就労移行を軸に、わくわくかんという福祉団体のよさや様々なメニューをつなげる「みせる事業」展開が必要です。

そして、給食事業以外の新しい事業展開をぜひ作り出していかなければなりません。名古屋では、「ソーネおおぞね」という新たな地域交流・福祉拠点の創造が始まります。

来春以降しっかりとした研修活動を行い、わく わくかんの「未来」をみんなの力で切り開いてい きましょう。

◆ 1月13日(土)はたらっくす 16:00~(自立訓練室)

るとされています。とりわけ A 型においては厚生

- ◆ 1月17日(水) 津久井やまゆり園事件 18:00~ 横浜市健康福祉センター 参加費1千円
- ◆ 1月29日(月)現場協議会 16:30~(スカイブリッジ)
- ◆ 1月30日(火)家族懇談会 16:00~(自立訓練室)

<わくわくかん 1月予定表>



hener

就労継続支援A型事業

北区赤羽南 2-6-6 TEL: 03-3598-0089 FAX: 03-3598-0089

手作りマーマレードはいかが?

夏みかん、ゆずなどを使ってマーマレードを手作りしよう。砂糖は果物の重量の 6 割が目安。 市販のものに比べるてあるので香り高く、そのぶん保存性は低い。 皮やわたを入れることでいり チンが働き、ほどよいとろみがつく。

・乾燥みかんの皮 入浴剤として用いると 風邪のひき始めに有効。すり鉢であたり、ふりかけにしても。

洗剤にも利用

かんきつ類の皮に含まれる d-リモネンという精油成分には、 脂肪分解作用があり、洗剤にも 利用されている。

昨年は、新年度の4月に就労継 続支援 A 型の指定基準の見直し あり「どう対処すれば良いか。

どうして、こういうことが打ち出されるのか?」と 影響を受けざるをえない状況でした。今年は4月に、 障害者総合支援法の報酬改定がある予定です。

どのような内容になるのか福祉サービスを運営する側により良い内容にはなっていない可能性が高いのではないかと予想されています。

そんな中でも、当事者スタッフ等からの有意義な提

かんきつ類



ビタミンPで血管強化

かんきつ類の原産地はインドから東南アジアといわれ、世界中に 100 種以上もあります。日本を代表するかんきつ類はみかん。 温州みかんとも呼ばれ、中国渡来のかんきつ類から偶然生まれた、日本独自の品種です。

多く含まれているのは、ビタミンC。カロテンやクエン酸も豊富で、疲労回復や風邪の 予防、回復に効果があり、美肌作りには欠か せない果物です。

捨ててしまうことも多い袋やすじには、ビタミンCの吸収率を高め、毛細血管を強くする効果のあるビタミンPが含まれています。また、みかんのオレンジ色の成分、 β -クリプトキサンチンには、ガンを抑制する効果があるとして注目されています。

今年もヨロシクネク

ロタカータン







年の初めに思うさとは・

案がたくさん出ています。

・わくわく配食サービスの厨

房の窓に、わくわく配食サービスお弁当宅配など 大きな文字をシールで貼る

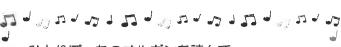
- ・ 移動販売 (注文を受けて、いつもの配達時間でない時にも配達をする。)
- ・ スポーツジムや整体など健康に関する店舗にチ ラシを置いてもらう営業活動
- 地域の企業の女性をターゲットにした営業活動
- ・ 地域の高齢の方向けの講座や外出イベントの企 画

など意見は尽きません。

なかなか実行に移せない状況がありますが、わくわく配食サービス内の総意を取り、一つ一つ実践していきたいと考えています。

今年こそ飛躍の年のできるよう力を合わせて福祉 サービスの改悪に翻弄されず邁進していきたいと 思います。

わくわく配食サービスが、より地域の方に必要と されるような活動を目指していきたいと願ってい ます。



ひとりぼっちのオルガンを読んで

誰にも 弾かれない時は 孤独だけど '

誰かが 弾く事によって 気分も楽しく

オルガン自身の 生き方が 勇気を与えてくれた気がします



N.T

2

自立訓練(生活訓練)事業 ボランティア響会

羅響(ひびき)

<外出報告>池袋



食べ放題・ボウリング

11月17日はスペシャル外出でした。

外出先は、池袋の焼肉食べ放題(喰喰)とボウリングでした。バス組と電車組(埼京線)で池袋へ向かいました。

思いのほか、電車組が少し遅れ、11:10~12:40 (90分)の食べ放題を満喫しました。他の人の食べ方を見ていると、いきなりアイスクリームと肉の両方を食べておられる方がいたり、肉ばかり食べていた方、まんべんなく食べていた方などがいました。

お腹を膨らませた後は、ボウリング会場へ。ボウリングが何十年ぶりという方がおられる中、楽しみました。1 ゲーム競い合って S. W 氏のグループが優勝しました。

ゲーム後、30~40分の自由時間があり、ダーツやゲームなどを楽しみました。記念撮影をして帰った人と残ってプリクラ撮影をした人たちに分かれました。 (Y. H、M. N)

☆赤羽駅 東口 花壇の植えかえ☆

11月27日(月)に響のプログラムでプランターの植えかえに行きました。

いつも通り響に来て集合時間十条駅から電車に乗って赤羽駅に行きました。

10:30 から北区の環境課主催のもと、「みどりの協力員」さん達と一緒に植えかえをしました。

作業手順としてはプランターの土を耕して、肥料を まき、そして全体のバランスを見ながら複数のお花を 植えました。

以前一緒に植えかえを行ったことがあるみどりの協力員の方が響のメンバー0さんを覚えて下さっていて嬉しかったです。今回必要な物をあらかじめ全て用意して頂いていたのでとても助かりました。植え終えた時にとても充実していたので、来年が楽しみになりました。

(メンバー 0.Y 0.K)

〒114-0032 北区中十条 1-2-18 北区障害者福祉センター4F TEL 03-5963-6888



見学=企業組合あうん

11月22日企業組合あうんの見学に行きました。 あうんとは荒川区にある生活困窮者自身による仕事 おこしの団体で、リサイクルショップと便利屋をおこなっています。

王子から都バスで大関横丁で降りました。4か所の作業場を見て回りました。その後、昼になってお鍋を作ってくれました。野菜、肉、うどん、しめじ、カニ、アサリ、ツミレの他天ぷらの、カボチャ、ナス、チクワ、エビ。そして、ごはんやカブの、漬けものを頂きました。

それから、リサイクルショップで買物をしました。炊飯器と収納ボックス、古本5冊を、買っていました。あうんでは、パソコンとエアコンと自転車は置かないそうです。よく売れるのは、洗剤と、ティッシュ、トイレットペーパー、せっけん、CD、カセット、DVD、着物、ぞうり、だそうです。そして、みなさん満足のいく買物をおえ、自宅に帰りました。 (W.S. K.A)

▼プログラム紹介▼♪プチパーティー♪

プチパーティーとは、 $1 \, \gamma$ 月に $1 \, 回行うプログラム$ です。

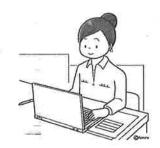
先月は11月27日に行われ、今回は利用者さん、2名の送別会が行われました。メニューはひびきメンバーが大好きな、たい焼きとコーラとお茶でした。ひびきメンバーが10名程参加して、卒業するお2人へ送別の言葉を贈り、大変感動的な場面でした。

(0, K) (Y, 0) (Y, H) (M, N)

就労移行支援事業

リボーンプロジェクト

〒114-0032 東京都北区中十条 1-2-18 北区障害者福祉センター4F Tel: 03-5963-6888





リボーンOBの先輩が講演 北区障害者就労支援フェアに出席して

2017年11月27日に、北区主催の"北区障害者就労支援フェア"が北とぴあにて、開催されました。リボーンプロジェクトでは、メンバー全員でお話を聴きに行きました。

フェアでは、障がいを持ちながらも、地域で一般就 労をしている方を講師として招いて、日頃のお仕事の 様子や仕事に対する心構えなど、当事者の視点でお話 しをしてくれました。

講師として招かれた方のうち、リボーンプロジェクトを卒業された方がいらっしゃいました。

お話しは、「安定して働き続けること」、「自分を伝えること」、「就労の支援と組織への貢献について」、「無理をしないこと」、などのテーマで実体験を基にしたものでした。いま自分が置かれている状況を、鋭い視点での分析をしつつも、分かりやすい言葉と優しい口調が印象的でした。

締めくくりとして、「障がいを持つ人が、自分を成 功モデルとすることによって、将来的に障がいによる 差別や不幸を減らしたい。」と、これからも展望を力 強くまとめてくれました。

<就労支援フェアの感想>

- ・後半の企業方は、リボーンの OB の N さんでした。安 定して仕事を続けることや、仕事への考え方や方向性ま で、ご自身の想いを「ていねい」に話されていました。 セルフコントロールしながら無理なく継続して勤める事 の重要性を感じました。(S.K)
- ・わくわくかん OB の人が講演者で出ていて勉強になりました。みんな色々な所でかつやくしているのだと思いました。(Y.E)
- ・理解しづらいところもあったが、学ぶことができたことを社会に生かして行きたいです。(U.H)
- ・むずかしかった。(O.T)
- ・昨年もタメになるお話を聞きましたが、今年もとても

参考になるお話が聞けて良かったです。中でも、働いて 笑おうというスローガンはとても素晴らしいものだと思 いました。私自身、就職出来たらそれで終わりと考えが ちでしたが、就職はゴールではなく、スタートなのだと 改めて考えさせられました。就職しても、それを続けて いけるかが難しいというのはまさにその通りだと思いま した。とても有意義な時間を過ごせて良かったです。 (K,Y)

・後半のお話がためになる話だと感じました。就職するより就職後が大切であるというのが一番重要だと分かりました。(K.S)

11月25日の土曜日の昼から今年2回目のOB会を行いました。訓練生、OBの方々、そこにスタッフも加わり、約30名弱と多くの方々に集まっていただき、2時間みんなで盛り上がりました。

最初は順番に自己紹介からスタート。初めましての訓練生もいたり、久しぶりにリボーンに来ら

OB 会に 30 名がなごやかに集う

最後は、休憩前にスタッフへの質問を記入いただき、その内容をスタッフが順番に答えるというもの。時間ギリギリまで皆さんの書いて下さった質問にお答えしました。

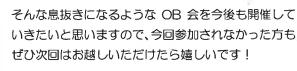
途中の雑談タイムでは、久しぶりに会う方々同士、いろいろ

なお話で盛り上がっていました。 たまには、こういう息抜きの時間 も良いのではないかと思います。

れた OB だったりと、皆さん個性的な自己紹介も含めて現状をお話いただきました。

OBの皆さんは、それぞれ卒業した先の進路で頑張られているご報告をお聞きすることができ、訓練生にとっても良い刺激になったように思います。中盤では、サイコロトークをしましたがサイコロが全然回らず。同じ目ばかりで連続同じトーク…。他の目

を出すには、サイコロを回転させながら投げなければならない、 何とも癖のすごいサイコロトークでした(笑)



- ◆OB 会に参加された訓練生の感想◆
 - まあ良かったです。(K.S)
 - ・久しぶりに会えた人がいて、職場のこととか話を

聞けて良かったです。(S.A)

• いろいろな方の会社の話が聞けて良かったです。(S.H)



第9回 わくわくかん 家族懇談会のお知らせ

開催日時: 2018年1月30日(火) 16:00~ 場 所: 障害者福祉センター4階 自立訓練室

内 容: 親亡きあと②

個人面談: ※(事前にお申し込みを)17:00~

連絡先: TEL 03-5963-6888 FAX 03-3906-9997





障害者作品展で自主製品販売会

わくわくかんも手作り小物や焼き菓子、ツリーの置物 「ふれあいマルシェ」の販売にも市民の購買力



毎年12月3日(国際障がい者デー)から12月9日(障がい者の日)までの1週間は、障がい者週間と 定められていて、国や地方自治体で障がい者週間の趣

旨に沿った事業が、様々に行われます。 北区でも毎年 12 月初めに、障がい者 作品展や区役所での自主製品販売会 などが行われています。

今年は、12月2日(土)・3日(日) に障がい者作品展が障がい者福祉センターで行われました。障がい者の方の様々な作品が展示されるほか、模擬店やバザーなども開かれ、例年非常に多くの方がいらっしゃいます。

わくわくかんでも、例年と同じくリボーンや響で製作した手づくりの小物や、配食サービスで作ったおにぎり、焼きそば、焼き菓子などを模擬店コーナーで販売しました。今年は飲食を扱う模擬店が少なくなり、それを見込ん

で食べ物の量を去年までよりもだいぶ増やしたので すが、売れ行きは非常に良く、土日ともに昼過ぎには 食べ物は完売しました。

12月4日(月)から8日(金)までは、「ふれあいマルシェ」と題して、北区役所第一庁舎の1Fで障がい者就労施設の自主製品販売会が行われました。わくわくかんは、8日(金)に出店し、手作りの小物、焼き菓子、えか農場から送っていただいた無農薬野菜を販売しました。毎年販売会に参加していることもあっ

て、焼き菓子や無農薬野菜について知ってくださって いる方も多く、「去年食べてみて美味しかった」とお っしゃり同行の方に買うのを勧めて下さる方もいら

っしゃいました。おかげさまで、焼き菓子・野菜ともに去年よりも量を増やしたのに、2時過ぎには完売できました。

障がい者作品展・自主製品販売会ともに、リボーンや響で製作した手づくりの小物の売れ行きが良く、リボーンで作ったクリスマス関連の小物や、響で作った松ぼっくりを材料にビーズやラメで飾りを付けたツリーの置物が、全て売り切れたのは、大変嬉しかったです。販売には、響に通っているメンバーを中心に、リボーンの訓練生や配食サービスの当事者スタッフも加わり、滞りなく行うことができました。今後も、販売に多くの当事者の方が関わってくれればと願っています。

販売イベントに参加していて感じるのは、他区に比べて北区は、障がい者就労施設が参加する販売のイベントが多く、北区の地域住民や区役所の職員の中で、私たちの商品を進んで購買してくれる方が多いという印象を強く受けます。北区の方の優しさ・心意気に、感謝することしきりです。

カット(左)はわくわくかんが障害者作品展で出品した販売 品、(右)はマルシェフェアでの販売品



12月のはたらっくすは9日(土)に わくわくかんで行われ、4人の参加者 でした。働きながらしなければいけな

い親の介護の事などが話されました。私は 20 才の頃から父に「お前は普通なんだから働け!」と言われて幸か不幸か就労の道を歩んで来ました。働く事は嬉しい事もあれば、辛い事もありましたが、今まで短時間就労も含めて働いて来て良かったなぁ、濃い時間だったなぁ、と感慨深いです。私は 51 才になり「あいつ

12月はたらっくす報告

死んだよ」という事態になっても何の不 思議もない年になりました。しかし、定 年までは今のヘルパーのお仕事を今ま

で通りに一生懸命にやらせて頂きたいです。

次回のはたらっくすは平成30年1月13日(土)16~18時にわくわくかんで開かれます。働いている方と働きたい方が対象です。時間内にいつ来られても、いっ帰られても自由です。あなたも是非ご参加下さい。

(H.M)

ソウルで第7回日韓社会的経済セミナー

社会的企業の社会的価値を議論

第7回日韓社会的企業セミナーは、12月1~2日、韓国ソウル市で社会的経済支援センターの革新パークを会場に開かれました。テーマは「社会的企業の社会的価値(社会的課題の解決)創出の事例」。韓国の法制度の発展拡充の中でテーマも実践の中から非常に具体的なものでした。今回ほど日韓市民社会の社会運動の実践差が広がったことを痛感したことはない。今回のポスターは一つの窓をくぐり抜け、さらに次に進もうとする足の意欲的なデザインが象徴的でした。

2009 年から始まった日韓社会的企業セミナーは、韓国の当事者組織の実践的、法制化運動を支援する在野の協同組合、労働組合、知識人らの社会的連帯会議(法制化後は共同社会連帯会議に名称変更)の市民組織の二重ループ的ネットワークによって一挙に韓国社会に社会的連帯の気運をつちかってきました。日本の「社会的事業所促進法」や「協同労働の協同組合法」制定運動には、この当事者を支える広範なネットワークを創りだされなかったことが韓国社会との違いです。

今回の日韓セミナーは 2007 年に始まった韓国社会的企業育成法の成果を確認しつつ、日韓双方で福祉ではないさまざまな社会的不利な立場におかれている脆弱階層と障害者就労の道が発展することを実現すべく開かれてきたことを確認するものでした。この間、韓国には 2012 年協同組合基本法ができ、ソウル市ではいち早く社会的経済基本法を制定、地方自治体では予備社会的企業やまち企業の数々の誕生をみました。その実態は右

図に示されています。

これに対し日本の場合、米 澤旦氏の「現代日本の労働統 合型社会的企業」報告のよう に、それは生活困窮者や社会 的排除の問題化が起こった



第7回日韓社会的企業セミナーでの討論風景

2010年代に構想された二つの法案として実現をみた「生活困窮者自立支援法」と未成立の「社会的事業所促進法」があったとするわかりやすい整理が報告されました。その結果、韓国でみられる多様な働き方として市民力と制度による再分配による支援が日本では福祉にとどまって『排除にあう人々』の就労につながらなってはいません。

セミナー開催前にソンドン区の社会的事業を視察しました。そこでの事業団は、区内の7社会的経済(社会的企業、協同組合、まち企業、ソーシャルベンチャー、社会的経済特区)と文化芸術、まちの住民コミュニティ、伝統的市場、小商工人など、様々な分野の人々と会って、地域住民や地域間の交流を通じて共生、共存の価値を分かち合うための旅のプラットフォームでした。そこまでふみこめない日本の状況にもどかしさを感じた2日間でした。

主な社会的経済企業の現状(2016年末)

組織の種類	社会的企業	協同組合	まち企業	自活企業	合計
組織数(個)	1,713	10,640	1,446	1,149	14,948
雇用人員(人)	37,509	29,861	16,101	7,629	91,100

Mさんはある日夢を見ました。亡くなったお兄様が立派な青年の姿で立っているではありませんか。Mさんが声をかけますが、海東はちりません。(佐前む兄様は

すが、返事はありません。(生前お兄様は重度の障害があり生涯話すことはありませんの限でいるでいるべったが勢いが勢いが気になられています。Mさんは驚きそこでも数からまが気になっても数からでした。不思議な夢が気になっても数かられるがあり、たまたまこの夢の話をとが起こるければ『これから大変なことが起こるから』大丈夫、心配しないで。見守っているから

というメッセージを伝えていますよ。今日私があなたに会いにきたのはこのことを伝えるためだったんですね」と話されたそうです。それから間もなく 3.11 東

現場からのひとこと8



夢解き人の来訪

日本大震災が起こりました。Mさん所有のビルは大きな亀裂が入り、取り壊しを余儀なくされ、Mさんはたくさんの苦労

をされました。「もう限界です。私にはこれ 以上無理です。神様助けてください」と全て を神様にゆだねた時、不思議な力が働きピ ンチを切り抜けられたそうです。

Mさんは「振り返ると兄のおかげで私は成長させていただいた。亡くなった今も守ってくれている」とおっしゃっています。不思議な夢と夢解き人の来訪。私たちは自分の力だけで物事を何とかしようとしがちですが、もしかしたら、天国にいる人達に見守られ助け

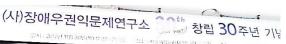
られながら、そして周囲の人たちからの祈りによって 日々の暮らしがあるのかもしれませんね。

相談事業所(S.S)

(毎月3回8の日発行) 増刊通券第5976号

障碍友権益問題研究所の 30 週年 共同連からのお祝いの記念品

韓国の障碍友権益問題研究の創立 30 周年を記念する集会が 11 月 30 日、ソウル市内で開催されました。 この集まりには、全国各地で労働統合型社会的企業によって就労を果たした障害者たちの元気な表情が結集しました。舞台ではその喜びを表現する発表が相次ぎ





ました (左)。 日本の

共は初流てでれしの 日同そかを固むてた 30 30



年を祝うために北海道から関東、中部、関西、九州から参加しました。研究所から共同連への感謝状と記念品が贈られましたが、共同連からも堀代表と斎藤事務局長がお祝いの記念品を送りました(右)。両者はアジアに社会的企業で障がい者や社会的不利な立場のさまざまな人々の就労を促進するため来年はモンゴルでのアジア交流の成功を誓い合いました。

リードリックが重度障がい者雇用と賃金改善を拓く

障碍友権益研究所がつくった社会的企業リードリックは、今回の日韓社会的企業セミナーで、増え続ける発達障がい者の雇用を実現した労働統合型社会的企業として高い評価を受けた。韓国での障がい者人口は244万人、重度は77万人、軽度は167万人。重度および発達障がい者の経済活動は劣悪で、2016年の発達障がいの雇用率は全体が61%なのに23.5%、失業率でも全体が3.7%なのに11.7%と高い。

リードリックは 2006 年に設立、社会的企業の中でも雇用提供型で、脆弱階層が全体労働者の中で 50%となる必要のある認証基準をクリアし、現在 56 人の障がい者雇用を実現

している。賃金は93万ウオンで保護作業所平均の39万ウオン、職業リハビリテーションの54万ウオンに比べ高い。事業内容はコピー用紙、印刷・出版、販促物、事務用品、DM事業など。韓国すべての都市にそのモデルを広げ、重度障がい者や専門家が一緒に参加する生産共同体を築こうとしている。セミナーでは労働だけでなく余暇活動の重要性が指摘されたほど。日本のB型の低い工賃、A型の誤った基準改定によって苦しんでいる日本の障がい者の状況とそれはもっと対比して、市民社会が検討すべき課題になっている。

共同連関東ブロック元気よく結成

共同連の関東ブロック結成会議が 12 月 16 日午後から、横浜市開港記念会館で開かれました。当日は JR の架線切れ事故の影響もあって埼玉からのメンバーなど到着にも影響がでましたが、地元から共同連に加わったシャロームの家の堀合(兄)さんの司会で無事に開会された。

斎藤縣三共同連事務局長の「関東ブロック結成」を歓迎する挨拶に引き続いて参加した団体の近況報告が行われました。

第一部で、あしたや共働企画の長尾さんが、多摩でのこだわりの分配金と当事者への上乗せ調整金の仕組みを語りました。東京北区のわくわくかん西野さんが精神を中心として展開してきた就労移行支援事業と制度変更で苦悩する A型配食事業自立への苦心談、八王子の結の会の井出さんが地元農家から引きついてブルーベリーのジャム製造の話、日野のやまぼうし伊藤さんからは共生社会を目指す市民自治型のさまざまな取り組み、シャロームの家からは堀合(弟)さんが当事者出身のスタッフを増やし横浜ピアスタッフ協会の活発な事業報告が行われました。また JR 事故で遅れた埼玉の職場参加を進める



会から古くから参加の当事者と車イスの女性から元気な活動報告を受けました。また東村山からユースンタンの和田さんが「共に働く」事業所を5つのワーカーズ・コレクティブで「ともっと事業体」を立ち上げた報告がありました。

第二部では、堀利和共同連代表が日韓社会的企業セミナーを法制化のため2年連続して東京で開催したのを契機に共同連東京を結成、さらに友好団体を含めた南関東ブロックの試みがあり今回の結成になったと経過を報告しました。続いてお祝いに駆けつける北海道ブロック、東海ブロック、ニュー関西ブロックからの連帯報告があり、結成を確認、懇親会がその後もたれました。

▲共生社会へのヒントを考える▼

~いっしょにはたらいて まちにそよかぜ~

越谷市の「NPO 法人障害者の職場参加をすすめる 間で100枚配布 会」(代表理事:山﨑泰子)が、毎年障害者週間に合 わせて開催する「共に働く街を創るつどい」を 12 月 17日(日) 越谷市中央市民会館で開きました。

「すすめる会」は、30年ほど前、重度障がいの方の さった方がたく 働く場を地域で確保したいというところから始まった さんいたことを 団体です。2004年に越谷市の就労支援センター開設時 お話してくださ に法人化を求められ NPO を設立しいう背景がありま いました。ま す。今回、市内の障がい者就労の先進的な活動を行った、ワーカーズ・コレクティブ「たのしい輪」では、 てきた「すすめる会」が、就労移行支援事業所「世事業所の前に「すすめる会」の事業所があり、なにか 一緒」を立ち上げるという

ことで、第1部で特別報告 としてリボーンプロジェク トの実践を深坂桂子がお話

しし、第2部では地域ではたらくことをテーマにパネ ル討論を行いました。

第2部のパネル討論では、埼玉大学教授の朝日雅也 さんがコーディネーターを務め、パネリストに地域で 活躍する相談支援事業所や生活介護事業所スタッフと 当事者、ワーカーズ・コレクティブ「たのしい輪」代 表、一般就労している当事者が参加、越谷市役所の副 課長もコメンテーターとして意見交換を行いました。

生活介護事業所の当事者の発表では、越谷市駅前で 週1回有償ボランティア参加の呼びかけチラシを1時 したところ、実 際にボランティ アをしに来て下

越谷の就労支援の現場から



一緒にできないかというところから交流が始まり、い

までは障がいの方と一緒に除草作 業したり外出の支援をスタッフが 担ったりといった関わりにまで発

展したということです。

どのパネリストからも「ともに」というフレーズが あり、地域・障がい者・企業が一体となって安心して 過ごすことのできる街づくりを創っていこうという姿 勢を、立場・組織を越えて確認できました。「すすめ る会」が長年培ってきた地域、人、団体と強いつなが りを、来年設立される「世一緒」へどのように受け継 がれ、活かし、街を創っていくのか、まちにそよかぜ をふかせる事業所の活動に期待します。

第3回

差別と人権を考える横浜市民講演会 一「津久井やまゆり園事件」で一

昨年7月、障害者支援施設「津久井やまゆり園」で発生した 46人が殺傷された事件は、誰しもがことばを失ったかと思います す。日本社会に「優性思想」が深く浸透しているとはいえ、

「(重複)障害者は不幸を作ることしかできません」(実行犯 の衆議院議長にあてた手紙)として大量殺人を実行に移すこと は何を意味するのでしょうか。この事件は、差別や人権を考え るうえで重い課題だが、永く深く考えていかなければならない 問題だと思います。

<記>

日時 1月17日(水)午後6時 開場 6時30分 開会

会場 横浜市健康福祉センター4F

JR・地下鉄桜木町駅下車徒歩3分

講演 津久井やまゆり園事件とは

- 共生社会にむけた私たちの課題は何かー

講師 堀 利和さん (NPO 法人共同連代表・元参議院議員)

参加費 1000円

主催 部落解放同盟神奈川県連合会横浜協議会

共催 じんけんネット「ゆい」

申込み Eメール sikyo@ec7. technowave. ne. jp

☆おすすめの 1 冊☆ 『構成的グループエンカウンター事典』

グループを対象と しており、心理的 な悩みをもつ人た ちにとどまらず、 悩みや症状をもた ない人々のさらな る心理的成長や対 人関係の改善をも 目指すために用い られているアプロ ーチ。それがグル ープエンカウンタ ーです。「エンカウ ンター=出会うと は何か」に始まり、 グループエンカウ ンターの種類と目 的、数十種類のエ



クササイズなどが紹介されており、「みんなでいること」 の力を知ることができるスグレモノの1冊です。北区中 央図書館にもありますので、ぜひ手にとってみてくださ ()!

(書評)堀利和編著:「私たちの津久井やまゆり園事件――障害者とともにく共生社会>の明日へ」(社会評論社)を読んで

< 入所施設の凄まじさに思わず息を呑む>

一読して、なんと重みのある本だろうと思った。70年代を彷彿とさせる堀さんのプロローグ、「母よ、殺すな!」との青い芝の糾弾を植松被告に差し向けるアナロジーの鋭さに驚く。続く入所施設の過酷な実態をえぐる諸論文、措置入院者・精神障害者の管理強化への赤信号。他方で当事者へのやさしさに溢れる地域実践の報告も。総体としていろんな立場の論旨と多様な情報に編集者の視野の広さがにじむ。次々と登場する書き手と資料とを辿っていくうちにこのような感銘を深めた。

この本は、大きく二部に分かれる。 第1部は重度知的 障害者の入所施設における大量殺害をめぐる混乱と今後のあり方をめぐって。第2部は施設に乱入した男の 事実経過と精神保健福祉法改訂案に抗する闘い。

前半では、重度知的障害者の家族会の「とにかく早く 元の場所に元の施設を!」と切望する声、それに対し 「いや、このような機会だからこそ地域移行へ。私の 息子は地域社会で立派に自立しています」とアピール する先進的な当事者と家族との実践を紹介する。行政 はその間で右往左往する。

とくに注意をさそったのは、ほかの施設に寄留を始めた利用者が、その惨たんたる境遇にいたたまれなくな

「これは大変な力作、ここから津久井やまゆり園の、いや全国入所施設の改革へ」 : 山本 勝美

って、親が元のやまゆり園に戻してと要望するが断られたという報告である。下には下がある実態が露呈する凄まじい事実関係に思わず息を呑む。こうして永年隠蔽されてきた入所施設群の悲惨な実態が今ようやく明るみに出た。

<「真犯人は施設そのものだ!」>

犯人はどうしてこんな残酷な行動を!と誰しもいだく問いに対し、違う!「真犯人は施設そのものだ!」という鋭い見解に直面する。半世紀にわたって身を持って入所施設を点検し続けてきた先駆者はこう指摘している。それに、インクルーシブ教育運動の無力な現状が優生思想を生み出したとする厳しい自責の言葉が続く。さらに福祉政策の先進国スウェーデンとの国際比較による日本福祉社会の未成熟性の解明。この事件は起こるべくして起きたと語っているのだ。

ところで事件発生により利用者の方々は突然やまゆり 園から放り出され、いくつかの入所施設に分散されて いく。しかも今後の方針は全く見えない。高齢のご家 族は戸惑いと疲労から「早く元の場に元の施設を」と 訴える。これらの辛苦の状況は理解できる。だからこ 

< 「精神病」との病名が不可解な事件を納得させる> 第2部では、そもそも「精神病」という病名が不可解な事件を人々に納得させてしまう効力を持つという。 私の見解だが、米精神医学会の診断体系(DSM)自体、身体医学体系をモデルにしながらも、変転し続けてきた荒唐無稽物だ。権力にどう利用されるかわかったものではない。

さてこの事件に乗 じてその翌日直ぐ に首相は国会でこ の事件を取り上げ 「精神保健福祉対 策の再検討を行

い、再発の防止を計る」旨唱えた。その日から措置入 院経験者を管理するための法改悪攻撃が始まった。こ うして今、障害者権利条約に謳われた本来的な精神保 健福祉政策は進まぬばかりか、地域移行が一層疎遠に なりかねない。それ故当事者集団や精神医療関係者、 野党は総力を挙げて阻止の闘い組んできた。ただ他方 で「人間らしく下町で」長年かけてひと同士の関わり 合いを育ててきた「こらーるたいとう」の実践報告に は心温まる。

<豊富な経験と柔軟なスタンスの編集>

総じて、重度重症知的障害者の置かれた状況、今後のあり方を巡る家族間の対立、不透明な行政、職員の実態、さらに植松被告の衆議院議長宛文書まで含めた正確な情報・資料、それに諸論稿の数々、全国の津々浦々から沸き上がってきた施設解体と地域移行の声をコンパクトに一冊に集約した編集は、堀さんの豊富な経験と柔軟なスタンスならではの成果として拍手を惜しまない。

(筆者は 東京都保健所心理相談員協議会会長 日本臨床心理学会運営委員会)

少女がおかれた〈平成〉の時代性

空 高志の『あやかし寝具店』(三交社)

新聞・総合雑誌、NHKの時代が遠くに去って、サブカルチャーしか時代を写す鏡がなくなったといわれる。それほど時代は細部化しデフォルメされた時代となった。どこを抑えれば〈時代〉はみえるのか?。そこでヒラめいたのが、空高志の小説『あやかし寝具店~あなたの夢解き、致します』はあんがいイケてる 2017 年の快作なのではないか。10 月に三交社から文庫本として発行された。

この小説は、眠るだけの簡単なお仕事!?―美人だけどドジっ子の女子大生が出会ったのは、うさん臭い店主と怪しいバイト!という少女マンガっぽい表紙のブックカバー付きなのたが、深層心理学Xライトミステリーとも銘打たれている。その内容は、主人公19歳の玉沢茜は美人だが極度のドジで、すぐバイトをクビになってしまう。神保町を歩いていると「寝具店・白河夜船」という貼り紙を見つける。寝るのが大好きな茜が気分転換に行ってみると、イケメンだけど奇妙な店主・夜市八彦がいた。半信半疑、なりゆきで「枕を使って眠るだけ」のバイトをすることになった茜だが、ある日バイト中に目を覚ますと枕の下に謎の物体、それは夢虫という夢のエネルギーを食べる生き物が無数に登場する展開…。

なんと情景がわかりやすく描かれていることだろう。



ら異次元の具象世界にいざなったが、ここでは引きこも り的な世界やクジラのおなかの中を夢としてはねまわ る。夢虫は人の夢からエネルギーを吸収して分裂し増殖 する作者の創造性の生き物だが、フロイドをかじったも のにはわかりやすくたまらない展開だ。

夏目漱石は『こころ』で〈明治〉の終わりを朝日新聞で天皇崩御を描いた。そこには教師志望の男と父母、恩師を巡って秩序的な日常が描かれた。いま「退位」によって〈平成〉が終わろうとする時代、バイトの女と離婚家族、捨て猫に心寄せる浮遊的な幻覚の小世界が描かれる。それは〈平成〉の写し鏡の世界ではないか。

就労支援センター北わくわくかん 登録者(2017年11月末)729名 就職者3名(事務、接客・レジ、受付)

先月 ご協力いただいた皆様

北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉センター・ 吉者職業センター・東京都障がい者就業支援事業所の会・あしたや共働企画・NPO 法人やまぼうし・シャロームの家・わらじの会・職場参加をすすめる会・東京コロニー太田工場・わっぱの会・東京しごと財団・大田工場・わっぱの会・政難の協同センター・企業組合あうん・障害者の職場参加をすすめる会・社会福祉法人つぐみ共生会・日本福祉教育専門学校・戸田中央看護専門学校・彰栄リハビリテーション専門学校等、

多くの方にご協力いただきました。

グループホームわくわくかん

現在、男性 2 名・女性 4 名が入居中です。7 月中旬から入院していた男性入居者 S さんが、ついに 4 ヶ月振りに GH に戻ってきました!入院前は、気の向くままボランティアに来てくれていた彼ですが、退院して今日まで、週5 日フルタイム休まず B 型に通所しています!50 代半ばの彼が働くのは、実に 30 年ぶり!しかも、若かりし頃は週 2 日程度しか働いていなかったそうです。手先の器用な彼は、B 型では大いに褒められ、本人曰く特別待遇されてるとの事!頑張れてる秘訣は、GH わくわくかん OB の H さんのおかげと語る彼は、50 代とは思えない清々しい笑顔を見せてくれました。

▼編集後記▼

日韓社会的企業セミナーの後、私は友人のいるソウル郊外の街へ地下鉄を乗りついで行った。「これからたくさん人が集まっているところへ行こう、顔なじみもいるよ」と誘われて出かけたのが、繁華街にある居酒屋だ。階段に大きなハングルの垂れ幕。協同組合 7 原則がかかれていた。協同組合の飲み屋でもなかった。「今日は医療生協の 20 周年。そのカンパの日」だという。会場は町のおじさん、おばさんら 200 人でぎっしり。おでんや唐揚をつつきながらワイワイガヤガヤ。2000 万ウオンが目標の集まりだった。韓国では協同組合基本法が生まれ、まち企業が新しく生まれたこともあってこうして市民資本が集められる現場を体験できた。クリスマスを迎える風景のなかに、ヨーロッパの出店が集まり、それぞれの国の食べ物や小物が売られている広場にも出くわした。市民が群れて異文化が交流できる韓国の街は若々しい。